

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 4 月 8 日 (2021.4.8)

【公開番号】特開 2019-204643 (P2019-204643A)

【公開日】令和 1 年 11 月 28 日 (2019.11.28)

【年通号数】公開・登録公報 2019-048

【出願番号】特願 2018-98164 (P2018-98164)

【国際特許分類】

H 0 1 R 12/72 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 12/72

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 2 月 8 日 (2021.2.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

図 1 3 及び図 1 4 を参照すると、特許文献 1 には、マイクロ S I M カード 9 5 0 を標準 S I M カードに変換する変換アダプタ 9 1 0 が開示されている。変換アダプタ 9 1 0 は、マイクロ S I M カード 9 5 0 を収容するカード収容部 9 2 0 を有している。カード収容部 9 2 0 は、弾性梁部 9 2 2 と、対向部 9 2 6 と、隆起部 9 2 4 とを有している。弾性梁部 9 2 2 は、弾性変形可能となっている。対向部 9 2 6 は、前後方向（X 方向）において弾性梁部 9 2 2 と対向している。隆起部 9 2 4 は、弾性梁部 9 2 2 から対向部 9 2 6 に向かって隆起している。マイクロ S I M カード 9 5 0 を変換アダプタ 9 1 0 のカード収容部 9 2 0 に収容すると、弾性梁部 9 2 2 が弾性変形し、マイクロ S I M カード 9 5 0 は、隆起部 9 2 4 及び対向部 9 2 6 に挟持される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

また、本発明は、第 7 のトレイとして、第 5 又は第 6 のトレイであって、前記第 1 逃がし孔は、前記第 2 カード収容部まで貫通しており、前記第 2 カード収容部に収容されるカードには、突部が設けられており、当該カードが前記第 2 カード収容部に収容された際に、前記突部は部分的に前記第 1 逃がし孔内に収容されているトレイを提供する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

図 3 に示されるように、本実施の形態の第 1 逃がし孔 3 9 2 は、トレイ 3 0 0 がコネクタ本体 2 0 0 に受容された受容状態において、コネクタ本体 2 0 0 の端子 2 7 0 の第 1 端

子 2 7 2 の後方に位置している。より詳しくは、図 3 及び図 7 を参照して、第 1 逃がし孔 3 9 2 は、トレイ 3 0 0 がコネクタ本体 2 0 0 に受容された受容状態において、コネクタ本体 2 0 0 の端子 2 7 0 の第 1 端子 2 7 2 の第 1 接点部 2 7 3 の後方に位置している。即ち、本実施の形態のカードコネクタ 1 0 0 において、トレイ 3 0 0 をコネクタ本体 2 0 0 のトレイ受容部 2 0 5 に挿入する際に、コネクタ本体 2 0 0 の端子 2 7 0 の第 1 端子 2 7 2 の第 1 接点部 2 7 3 がトレイ 3 0 0 の第 1 逃がし孔 3 9 2 上を通過することはない。一方、第 1 対向部 3 1 6、第 1 弾性梁部 3 1 2 及び第 1 逃がし孔 3 9 2 が、前後方向において、本実施の形態と逆に配置されている場合、トレイ 3 0 0 をコネクタ本体 2 0 0 のトレイ受容部 2 0 5 に挿入する際に、コネクタ本体 2 0 0 の端子 2 7 0 の第 1 端子 2 7 2 の第 1 接点部 2 7 3 がトレイ 3 0 0 の第 1 逃がし孔 3 9 2 上を通過することとなるため、第 1 端子 2 7 2 が摩耗したり、第 1 端子 2 7 2 の第 1 接点部 2 7 3 がトレイ 3 0 0 の第 1 逃がし孔 3 9 2 に嵌って第 1 端子 2 7 2 が座屈してしまう可能性がある。従って、本実施の形態のトレイ 3 0 0 の構成は、上述のような欠点が無く、より好ましい。